

ワインを贈るときは、飲み方や料理のアドバイスをつけたい



ワインオープナー、カッターのセット6,500円/西武有楽町店(PISA) ☎03-286-5777 友田さんのおすすめは、イギリスのワインジャーナリスト、ヒュー・ジョンソン氏デザインのオープナーセット。「ワインを贈る人は多いけれど、こういう小物にまではなかなか目が届かないものですね。機能的でシンプルなデザインは、どんな人にも受け入れてもらえるはず。お中元やお歳暮、結婚、新築祝いなどにも最適だと思います」

友田晶子さん

——ワイン・コーディネーター——



ともだ・あきこ 1963年福井県生まれ。2度の渡仏経験を生かし、ワインやお料理を中心に、パーティーのコーディネーターとして活躍中。年に数回、フランスへワイン修業に。

印象に残るものを贈りたい、という友田さんがよく選ぶのは、新鮮な魚介類。真ダコ、カニ、エビ、ときにはサワラの味噌漬けなども……。旬の味覚を味わってほしくて、仕事でお世話になった方や友人の誕生日などに、贈ります。もちろん、味は保証付き。とびきりの品物です。「まわりは味にうるさい人が多いので、かなり自信をもっておすすめてくれるものじゃないと贈れませんね。逆にいえば、それだけ贈りがいるということですから……」

今のところ、贈ったものはすべて喜ばれているそう。なかには「こんなにおいしいエビは食べたことがない。今まで食べていたものは何なんだッ」とまで、感動してくれた人も。こんなに喜んでくれるなら、よし、今度はもつとおいしいものを見つけて贈ってあげよう、という気持ちになります。友田さんの場合、仕事柄ワインを贈ることが多いのではと思うのですが、これが

がそうでもないようで……。ワインが欲しいという人以外には、基本的には贈りません。というのも、ワイン好きで好みをよく知っている人なら問題はないけれど、よく知らない相手の場合、贈っても喜ばれないことが多いのだそう。「少なくとも、相手の好み、食生活を知らないと、ワインは選べないものなんです。お値段が手ごろだからとか、パッケージがおしゃれだからとかの理由で選ぶなら、やめたほうがいいですね。自分がとても気に入っておすすめしたいなと思ったとき、相手がワインに詳しくない場合などは、飲み方やどんな料理に合うかなど、簡単なメッセージを添えてみては。デパートのワイン売り場でも教えてくれます」

めんどろだからと、つい品物だけを贈ってしまいがちですが、ちょっとした心遣いで、印象度が違ってきます。品物と一緒に心を贈るって、こういうことかもしれませんね。